（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　ぱれっとおもろまち			
○保護者評価実施期間	2025年　3月１　日	～	２０２５年　3月　３１日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○従業者評価実施期間	2025年　3月１　日	～	２０２５年　3月　３１日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月３１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供	・児童発達管理責任者の作成した計画書を基に、日々の振り返りを全職員で行い、共通した支援を行う。 ・児童の特性に合わせた個別課題への取り組み ・職員の知識・技術の向上のための研修機会を持つ	・職員一人一人がよりスキルアップを目指す ・児童に関わる職員同士が、経験や役職にこだわらず、気軽に相談しあえる関係性の構築
2	保護者や関係機関との連携	・保護者が孤立せずに、自由に相談しあえる関係性づくり。（おもろカフェ　各月開催） ・家族のレスパイトの時間の確保や預かりニーズに対応するための延長支援 ・子育て、障害に対する情報提供（保護者懇談会、面談）	・母親同士の関係性はできてきたが、父親同士の関係性の構築に努めたい。→父親主体の行事の企画等 ・兄弟児に対しては、個別に相談などは受けている。「兄弟児同士の交流」については、兄弟といっても、年齢の幅が「乳児から中学生まで」いるなかでどのような交流の目的、十分に検討して取り組む必要があると考えている。
3	安心・安全な場の提供	・非常時の対応については各種マニュアルを設定、訓練と改善を定期的に行っている。 ・児童の日々の体調・情緒の状態について保護者と連携し、その日の様子に応じた支援を行う。 ・子どもの権利擁護、虐待防止に関する研修の機会を盛る	・様々な災害を想定し、どの場合でも最適な対応できるようにしていきたい。 ・利用児が自分自身で、自分の体調や気持ちを表現できる支援も同時に行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関り	・商業施設多く、県外からの移住者も多い振興都市地域。地域住民がそもそも孤立しやすい環境にある。	・自治体や地域の協力機関との連携をより密に行うとともに、SNSなども活用し、この事業所の取り組みを必要とする地域住民が、より身近に気軽にサービスへ繋がれるよう努めていきたい。
2	事業所設備のバリアフリー	・事業所の設置状況により、完全なバリアフリー化はなされていない。	・バリアフリーの課題は、「階段や段差をなくす」などの物理的な解決方法のみでなく、「人による介助や見守り支援を丁寧に行う」ことも含め対応していく。
3	地域のこども園、保育所等との交流	平日においては、多くの児童が地域のこども園、保育所等にそれぞれ通園している。午後の限られた時間のなかで、「個別の課題に向き合う療育の時間」と「地域交流する時間」の両方を持つことの難しさがある。	・土曜日開催の行事（年に数回企画、公民館等地域の施設を利用）において地域の子ども達を招待すること等、方法を検討していきたい。